

かがやき

令和6年 11月 1日 (金)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 11

熟成して成長していくグループ内の関係性

11月になり、やっと季節は秋らしくなってきました。小集団指導での時間の中で子供たちの関係性にも成長を感じます。今回は6年生小集団のエピソードについて紹介します。

かがやき教室の小集団指導では、個々の課題に応じつつ小集団での関係性を通して、子供たちが互いに「学び合う」場面を、『演習』という時間の中に設定して指導を進めています。今回はその場面の中でも、「空気を読む・6年生バージョン」をテーマにした「協力神経衰弱」にトライしました。『空気を読む』、これは高いコミュニケーション力を求められるようになった近代社会の中で、ずっと続いているテーマのように感じます。子供自身の成長や、所属する集団等で求められる力は変化し、それに合わせて気づきや更なる成長もあります。



今回の「協力神経衰弱」は、2人ペアの協力型ゲーム(チーム制で行う)に設定し、最後まで『楽しめる』ことを目標に進めました。コミュニケーション力の具体的なポイントとしては、『①勝敗に流されない。②相手の冗談や軽い煽りに対応できる。③ペアで協力できると同時に、場の雰囲気を楽しめる言動や所作で行う。』の3点に設定しました。

ゲームに乗り気ではなかった児童もいましたが、ペア決めについてはスムーズに行うことができ、良い雰囲気でもゲームに入っていくことができました。カードを選ぶ際にも、「確か、こっち!」「これでいい?」「お前に任せた!」「やったじゃん!」等のお互いを意識して『楽しむ』という場を4人で共有することが出来、大きな成長を感じました。最後のカードを取り、ペアで数を数えていきます。チーム戦での勝敗がつかしましたが、ここも「おいしい!」「くやしい!」と気持ちを言葉で消化することができました。そして、教師が振り返りとして「ここまできて、4年生のときはゲームが最後までできなかったこの4人が、一緒に楽しくゲームをすることができましたね!」と声をかけると、4人はみんな揃って拍手をし、同じ気持ちを共有することができました。

かがやき4コマ 自分では気がつかない成長



『空気を読む』というのは大人社会の理屈っぽい言葉ではありますが、どのような態度や言葉が今の場面に必要か、そこに以前より意識を向けて活動できるようになったのではないかと感じます。今回の授業の最後には、数年間継続してきた小集団の関係性が「熟成」され、成長していることがお互いに場を楽しむ結果につながったことを子供たちと最後に確認しました。人間関係が成長していくことで、お互いへの意識も変化していき、この繰り返しが次の自分の生活にもつながっていきます。自分たちの成長を具体的に実感できた演習の時間でした。